

町会の皆様、
町会に籍のある企業にお勤めの皆様、
町会に所縁のある皆様へ

錦連合

(錦町二丁目町会、小川町三丁目南部町会)

令和五年 神田祭 ご案内

担ぎ手大募集!! はじめての方大歓迎!!

錦連合のお神輿を担いで神田祭に参加しませんか??

小さなお子さんから、おじいちゃんおばあちゃんまで、みんなで活気ある街をつくりましょう!

大人がお神輿を担ぐには、町会半纏が必要です。

事前申込で町会から半纏の貸出あり(数に限りあり)。子供は、自由な服装でOK!!

5月13日(土)

こども だし
子供山車

12:30集合
(13:00~15:10)

よいみや みこしとぎよ
宵宮/神輿渡卸

16:00集合
(16:30~19:00)

5月14日(日)

みこしみやいり
神輿宮入

9:30集合
(10:00~20:00)

■服装について

帯は各自でご用意ください。(宮入の際には半纏を帯でしめていただきますので必要です。)

その他の装束の貸出がないため各自でご用意下さい。装束をお持ちでなくても白いTシャツや短パン、スパッツでも問題ありません。

ただし履き物については革靴、サンダル、スニーカーは他の担ぎ手の怪我につながるので禁止とさせていただきます(草履、地下足袋等でご参加下さい)

■感染対策について

- ・マスクの着用は各自のご判断にお任せします
- ・手洗い、消毒を心がけてください
- ・当日、体調の優れない方は参加をお断りします

■その他

- ・更衣室はございませんので各自着替えを済ませてからお集まり下さい。
- ・両日共に付近の道路は全面的に駐車禁止となりますのでお車はご遠慮ください。
- ・今回、給水車は出ませんので各自脱水症には気をつけてご参加ください。

錦連合では、宮入を氏神様へご挨拶に行くことと位置づけております。

宮入までの道中での飲酒や禪姿での宮入についてはお断りしておりますこと予めご承知おきいただきご参加下さい。

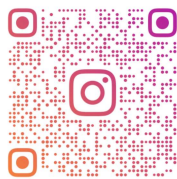
≪半纏貸出費用≫

*クリーニング代込

町会員 : 1,500円

非町会員 : 3,000円

半纏貸出時にお支払い下さい。



NISHIKI2CHOME

Instagram



LINE 公式アカウント
@075mkxnn

集合場所

にしきれんごう おみきしよ
錦連合御神酒所

錦町二丁目町会事務所
(神田錦町2-2-30)



集合場所地図QR



【お申込・お問合せ先】

右記QRもしくは公式LINE,メールにてお気軽にお問合せください。

✉ nishikicho2chome@gmail.com 担当: 岡田080-1063-5804



Google フォーム

錦連合

錦町二丁目町会

小川町三丁目南部町会

神田祭とは？



■神田祭（かんだまつり）とは

神田神社（神田明神）のお祭りです。神田明神の創建は、天平2年（730）といわれており「江戸の総鎮守」と称えられてきた古社です。京都の祇園祭、大阪の天神祭と共に日本の三大祭りの一つにも数えられており、山王祭（赤坂の日枝神社）、深川祭（江東区深川八幡）と並んで江戸三大祭の一つともされています。また、江戸時代、神田明神のお祭りは赤坂の日枝神社と並び江戸城内に入ることが許された「天下祭」と謳われていました。

「お祭り」は長年町の人たちが大切に受け継いできた神事です
御神輿→漢字で「神の輿（乗り物）」、英語で「(sacred) portable shrine」
お祭りの前と後に「御霊（みたま）入れ/御霊返し」という神様をお遷（うつ）する儀式が執り行われます。

普段、土地の氏神様は神社にいらっしゃいます。
お祭りの日はそのご神体を神輿にお遷しし（5/12の御霊入れ）、守っている地域を氏子とともに巡っていただく。
お祭りでお神輿を担ぐということは、氏子地域である町内とその周辺を土地の神様とともに練り歩くということです。

「神田祭」は、神田神社（神田明神）のご神事です。
地元の人たちが大切に守ってきたお祭りだということをしっかり心にとめていただきご参加ください。

■日程

5月12日（金）夕刻 氏子町会神輿御霊入れ（うじちょうかいみこしみたま入れ）
5月13日（土）午前 神幸祭（しんこうさい）（神田、日本橋、大手・丸の内、秋葉原巡行）
昼から子供の山車（だし）を町内巡行、夕方から宵宮（大人神輿の町内渡御（とぎよ））
5月14日（日）終日 町会神輿宮入（みやいり）神田神社へ、昼食後に町内に戻ってそのまま渡御

■お祭りの装束（服装）について

地域によって違い、個人の好みもあります。
はじめから丸々一式揃えなければならないということはありません。
ただ、お天気に恵まれれば思っている以上に汗をかくので、下記の格好は適していると思います。
衣装を揃えていく、「型から入る」ということもお祭りの楽しみ方のひとつにしてみてください。
合わせて、普段の生活には馴染みがなくなってしまった格好をお祭りのときに身につけてみるのもよい経験ではないでしょうか！

- ・鯉口シャツ
- ・股引（ももひき）
- ・腹掛け（どんぶり）
- ・帯
- ・地下足袋
- ・手拭い

慣れていない担ぎ手の方にはタオルを持参することをお勧めします。汗を拭けることもありますが、御神輿を担ぐときに肩当てにもなります。

着方は人それぞれ。ただし、最低限守って欲しいことは、すっきりとした格好で担ぐということ。
だらしない格好では神様や町の人たちに失礼になってしまいます。
着こなしは慣れなので、素敵だなと思う人をチェックしてマネをしたり教えてもらうといいですよ。

■半纏について

法被と呼ぶ方もいらっしゃいますが、半纏は庶民の作業着法被は武家社会の装束としてそれぞれ発展したので作りや着方も異なります。
そのため本来神輿の担ぎ手が着用するものは半纏とよぶのが一般的とのことでした。
印半纏という言葉は耳にするかと思いますが、背・襟などに屋号や氏名などを染め抜いた半纏のことです。
町ごとに違う制服みたいなものですが、担ぎ手にとっては大事なもので、その半纏があるから担ぐことができます。
町会の印が入った半纏は町会の証と思っておいただき、腰をかける時にはお尻に敷かないように裾を上げるようにしましょう。

■聞きなれない用語について

木頭（きがしら） → お神輿を上げるときと下ろすときに馬に乗って指示を出す人
馬（うま） → お神輿を置く台のことで前後に各1つある
担ぎ棒ととつくと → お神輿について下さい
神輿をあげる → 木頭の拍子木に従ってお神輿をあげる
神輿をおろす（木を入れる） → 木頭の拍子木に従ってお神輿をおろす
さす → 担ぎ棒を手のひらに乗せて持ち上げ反対側の手で担ぎ棒をたたく
肩を入れる → 担ぎ棒を肩に乗せる

■その他

せっかくの神田祭、怪我をしないようにしましょう♪
手の爪もきっておく方がいい。足の爪も忘れないように。
アクセサリ（特にピアス）、時計などもしないほうがいいです。
慣れていない人は特に、自分が怪我をするだけでなく人に怪我をさせてしまう場合も。
また、紛失など嫌な思いをしないためにも全て外して担ぐことをお勧めします。

■宮前とは

神社の境内、お宮の前のこと。ここはお祭りのハイライトで特に人が多くて盛り上がる。
ただし、大変な混雑のため騒乱状態となることが予想されますので気をつけて下さい。

■最後に

お祭りは「ハレ」の日
自分好みの装いで粋に格好良く、怪我の無いように気をつけた上で、目一杯楽しんでください！



【お申込・お問合せ先】

右記QRもしくは公式LINE、メールにてお気軽にお問合せください。

✉ nishikicho2chome@gmail.com 担当：岡田080-1063-5804



Google フォーム